

究極の素材

SUPER cLc

いかに強度と軽さを満足させるか。

ヘルメットの世界にも、Kevlarやカーボンファイバーをはじめとして、数々の新素材が導入されている。その中には、素晴らしい特性が注目されているものもある。例えば、Kevlar。比重わずか1.3と、ガラスの約半分の重さに対して、その引張り強度たるや鋼鉄以上。まさに驚異的な性能を示す。しかし、世の中に完全無欠のものなしというのは事実で、このKevlarにも弱点がある。引張り強度では無類の強さを誇るKevlarも、成型されると圧縮に対しては全くだらしなく、簡単につぶれてしまう。引張り強度に対する強じんさからは想像もできない《アキレスの踵》といえる。

ヘルメットの素材として理想的なものは、引張りと圧縮の両方に対する強じんさと、軽さを併せもったものです。だから、ただ単にKevlarを使いさえすれば、軽くて丈夫なヘルメットができるというものではないのです。このように、Kevlarに代表されるいかなる素材でも、長短併せもっているという事実を知っておいてください。

Aralでは、数多くの素材の特性について研究を重ねてきました。そして、これらの新素材を数種類、それぞれの弱点をカバーしあうように組み合わせることによって、cLc以上のポテンシャルを引き出せると考えました。そして、Kevlarをはじめとする数種類の素材を、それぞれの長所が可能な限り活かされるように、4~5層に組み合わせて完成したのが、Super.cLcなのです。スネルの“目”以上の究極を求めて…。

第1号のプロトタイプは、'80年4月にスネルの承認を得ました。

その時の重量が、シールドなしのフルフェイス型で、なんと1,100グラム。これにはスネルもビックリ/しかし、第1号プロトタイプは、スネルをパスしたものの(Aral)の納得するレベルには達していませんでした。そこで、レースなどの試用実検をくり返し、改良を加え、やっと(Aral)が納得する性能をもつものとして、第2号プロトタイプが1,150グラムでスネル1980年規格に承認されたのです。やはり、「けたはずれの軽さ」として、スネルの称賛を受けました。(Aral)はひとつの極みに達したのです。

さて、今回限定生産のSL-80は、商品化のためにクイック・オープン・シールドとディフレクターを装備して、プロトタイプより100グラムほど重くなっています。(デザイン塗装をほどこすだけで、30グラムほど重くなるという事実をご存知ですか。)にもかかわらず、世界で最も軽いスネル1980ヘルメットなのです。そのうえ、スネルをクリアーしただけでなく、(Aral)が満足した性能なのです。これはまさしく、No.1オブ・ザ・ワールドといえるでしょう。

おそらく最も理想に近いヘルメット用の材質として完成された、Super.cLc。しかし、これとて完璧とはいえません。生産性やコストの面に、まだまだ問題を多く残しています。この点をクリアーして、いかにしてより多くの方々に使っていただけるようにするかが、今後の課題です。

ひとつの極みに達すること、そこには常に新しい原点が見えてくる。だから(Aral)は思考し続けます。何がパーフェクトなのかを。

●規格 スネル1980 JIS第2種C種 ●サイズ (55~56)、(57~58)、(59~60)、(61~62) ●カラー 限定仕様 ●価格 ¥70,000



株式会社 新井 広 武